

老猫の飼い方



猫の寿命

猫の平均寿命は統計上15~16歳ですが、20歳を超える長寿の猫も少なくありません。まだまだ元気な猫さんも、飼う環境を整えて気持ちよく過ごしてもらいましょう。

老猫の病気

猫も人と同様高齢になると、加齢に伴い様々な病気が出てきます。特に多いのが腎臓の機能不全です。猫はなかなか具合の悪さを訴えてこない、「何かおかしいな」と感じたら動物病院で健康診断をしてもらいましょう。腎臓の機能不全の他にも、糖尿病、肝機能の低下、吐き戻しなども多くなります。

急に性格が変化した（咬むようになった、威嚇するようになった）場合は、身体に痛いところがあるなど体調に問題があるのかもしれない。良く観察しておくとう診の際に役立ちます。

関節の痛みもよくみられる症状です。椅子など高い所に上れなくなります。人間と同様耳や目が不自由になる猫も多いです。

耳が遠くなると

玄関に迎えに出なくなった。

屋外の猫の声に反応しなくなった。

呼んでも来なくなった。

目が悪くなると

猫の目をみると、黒目が白く濁って見える。

明るいところでも瞳孔が広がっている。

このようなことで、悪くなっていることに飼い主が気づくことも多いようです。

加齢によるものか、他の病気によるものなのか、動物病院での検診をお勧めします。見えづらくなっていたら、部屋の模様替えなどで不自由を感じる猫もいます。環境はなるべく変えないほうが良いようです。

餌

市販の餌には、高齢用、肥満用、吐き戻しにくい、便秘や下痢になりにくいなど、様々な特徴をもったフードがあります。食べやすい大きさ、カロリーなど工夫がされています。猫にあわせて、健康を維持できる餌を選びましょう。

病気によっては動物病院で「処方食」を処方されたり、勧められる場合があります。特に尿路系の病気やアレルギーの場合には、処方食以外の餌では再発したり、悪化したりする場合があります。獣医師の指示に従いましょう。

トイレ

高齢になると、トイレに失敗することもあります。でも叱っても治るものではありません。老猫の場合

- ・トイレが遠くて間に合わない
- ・トイレが高くて乗り越えられない
- ・関節が痛くて歩きたくない
- ・具合がわるくて歩きたくない
- ・頻尿・多尿
- ・認知症

一度失敗した時の臭いでトイレと勘違いなどが原因である場合があります。

もとのトイレとは別に

- ・トイレを複数設置
- ・トイレを寝床の近くに設置
- ・トイレは浅いものを設置
- ・糞尿のにおいのついたものは処分

などの対策で改善が期待出ます。

動物の病気による痛みの緩和等を希望する場合は、かかりつけの獣医師とよく相談しましょう。

千葉県動物保護指導センターでは動物の病気や高齢を理由とした引き取りは行っていません。その動物の最後まで責任をもって飼いましょう。